

平成20年度(21年3月期) 中間決算の概要



株式会社 大光銀行

目 次

1 . 貸 出 金	1
2 . 預 金 ・ 預 り 資 産	2
3 . 収 益	3
(1) 業 務 純 益	3
(2) 経 費	4
(3) 経 常 利 益	5
(4) 中 間 純 利 益	6
4 . 不 良 債 権	7
5 . 自 己 資 本 比 率	8
6 . 業 績 予 想	9

本資料の前年同期比の値は、表上の20年9月期、19年9月期各々の値にて計算しております。

1. 貸出金

貸出金残高は、前年同期比158億円(1.95%)増加し、8,250億円。

資金需要の低迷により事業者向け貸出は減少したものの、個人向けおよび地公体向け貸出が増加。

(単位：億円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
貸出金残高	8,250	8,092	158	1.95%
事業者向け	4,928	5,036	108	2.14%
個人向け	2,551	2,498	53	2.12%
うち住宅ローン	2,305	2,228	77	3.46%
地公体向け	770	557	213	38.24%

2. 預金・預り資産

預金残高は、前年同期比73億円(0.63%)増加し、1兆1,638億円。

公金等の取崩しがあったなか、個人預金は順調に増加。

預り資産残高は、前年同期比47億円(3.97%)減少し、1,137億円。

投資信託は、20年9月末までの1年間で93億円販売したものの、金融市場の混乱の影響による基準価額の下落等により、前年同期比96億円減少。

公共債・生命保険は順調に増加。

(単位：億円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
預金残高	11,638	11,565	73	0.63%
個人	8,735	8,517	218	2.56%
法人・地公体・金融機関	2,903	3,048	145	4.76%

(単位：億円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
預り資産残高	1,137	1,184	47	3.97%
公共債	508	471	37	7.86%
投資信託	458	554	96	17.33%
生命保険	146	130	16	12.31%
外貨預金	24	27	3	11.11%

3. 収益

(1) 業務純益

業務純益は、金融市場の混乱の影響により有価証券の減損などの負担が生じたが、前年同期比3億6千2百万円の減少に留まり、32億1千7百万円。

預金利息の増加が貸出金利息の増加を上回ったことなどから、資金利益が前年同期比3億9千9百万円減少、保有債券の減損により国債等債券損益戻のマイナスが同5億8千8百万円に拡大などの減益要因があったものの、一般貸倒引当金の戻入れ8億2千9百万円が増益要因となったことによる。

コア業務純益は、前年同期比6億4百万円減少し、29億9千2百万円。

(単位：百万円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	3,217	3,579	362
コア業務純益	2,992	3,596	604

業務純益の主な変動要因

・増益要因

(単位：百万円)

項目	前年同期比
一般貸倒引当金繰入	829

・減益要因

(単位：百万円)

項目	前年同期比
資金利益	399
国債等債券損益	588
役務取引等利益	179

資金利益の増減内訳

(単位：百万円)

項目	前年同期比
預貸差利益 (-)	413
貸出金利息	12
預金利息	425
有価証券利息等	119
借入金利息等	105
資金利益 + -	399

(2)経費

経費は、前年同期比ほぼ横ばいの71億3千3百万円。

今後もローコスト経営を目指し、経費の合理化を図る。

(単位：百万円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
経費	7,133	7,099	34
うち人件費	4,080	4,080	0
うち物件費	2,745	2,728	17
うち税金	307	290	17

(3) 経常利益

経常利益は、前年同期比 11億9千2百万円(41.22%)減少し、17億円。

業務純益の減少のほか、景況悪化による不良債権処理費用の増加、信用保証協会の責任共有制度開始(19年10月より)等による偶発損失引当金の繰入れ等の減益要因が、株式等関係損益等の増益要因を上回ったことによる。

(単位：百万円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A-B)
経常利益	1,700	2,892	1,192

主な増益要因

(単位：百万円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A-B)
株式等関係損益	530	186	716

主な減益要因

(単位：百万円)

項目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A-B)
業務純益	3,217	3,579	362
不良債権処理費用	1,385	1,112	273
偶発損失引当金繰入	568	-	568

(4) 中間純利益

中間純利益は、前年同期比 1億2千6百万円(9.64%)減少し、11億8千1百万円。特別損益が前年同期比4億7千2百万円減少したものの、法人税等税金費用(法人税、住民税及び事業税 + 法人税等調整額)が同15億3千8百万円減少したことによる。

(単位：百万円)

期 項 目	20年9月期 (A)	19年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
(資金利益)	9,881	10,280	399
業 務 純 益	3,217	3,579	362
経 常 利 益	1,700	2,892	1,192
(経常収益)	14,212	13,385	827
(経常費用)	12,511	10,493	2,018
特 別 損 益	128	600	472
税引前中間純利益	1,829	3,493	1,664
法人税、住民税及び事業税	1,044	421	623
法人税等調整額	397	1,764	2,161
中 間 純 利 益	1,181	1,307	126

4. 不良債権

不良債権額は、景況悪化により前年同期比38億円増加し、348億円。

不良債権比率は、前年同期比0.39%、20年3月期比0.21%上昇し、4.16%。

(単位：億円)

項目		20年9月期	19年9月期	19年9月期	20年3月期 (参考)
			19年9月期比		
金融再生法開示債権	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	108	3	105	112
	破綻先債権	25	7	18	35
	実質破綻先債権	83	4	87	76
	危険債権	195	31	164	167
	要管理債権	44	4	40	48
	小計(A)	348	38	310	328
	正常債権	8,038	114	7,924	7,985
	債権額合計(B)	8,386	151	8,235	8,314
不良債権比率(A/B)		4.16%	0.39%	3.77%	3.95%

5. 自己資本比率

自己資本比率は、利益の積増しや劣後債の発行(19年11月・80億円)により、単体が前年同期比1.31%上昇し、11.38%、連結が同1.30%上昇し、11.37%。

20年3月期との比較では、金融市場の混乱により保有有価証券の評価差額金の自己資本からの控除等の低下要因があったものの、リスク・アセットが減少したことにより、単体が0.03%、連結が0.04%の低下に留まった。

Tier 比率は、連結・単体とも8.90%で、十分な水準を維持。

(単位：億円)

項目	20年9月期	19年9月期比	19年9月期	20年3月期
	単体自己資本比率	11.38%	1.31%	10.07%
単体Tier 比率	8.90%	0.14%	8.76%	8.79%
単体自己資本	690	83	607	693
単体リスク・アセット	6,062	31	6,031	6,077
連結自己資本比率	11.37%	1.30%	10.07%	11.41%
連結Tier 比率	8.90%	0.14%	8.76%	8.79%
連結自己資本	691	82	609	695
連結リスク・アセット	6,080	31	6,048	6,095

6. 業績予想

(単位：百万円)

項目	通期(21年3月期)	
	連結	うち単体
経常収益	28,100	27,720
経常利益	2,650	2,640
当期純利益	1,520	1,520

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであり、経営環境の変化等により計画または予想の数値と異なる可能性があります。